

だんないの道

第34号

2018年3月15日発行

発行者：NPO法人CILだんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1	アパートと羽毛布団と洗濯機P2
本人の声を聞いてP3	電動車椅子サッカーの魅力P4
みんないっしょがいい!P5	活動報告P6
コラム ヨリの雑記帳P8		

代表あいさつ

今年初めての『だんないの道』の発行となりました。年始号として発行するつもりが、気がつけばもう春の訪れが感じられる時期となってしまいました。この冬は、たび重なる大雪に見舞われ、秋に購入した除雪機が大活躍。去年までのことを思えば、職員への負担はかなり減ったと思います。そのおかげで、活動にほとんど支障が出ませんでした。ドーンと積まれていた駐車場の雪も、春の日差しのおかげで、ほとんど溶けました。厳しかった冬、みなさんはどのように過ごされたでしょうか？

さて、新事務所の改修工事の着工から3ヶ月が経ちました。床や内壁貼りが終わり、まもなくクロス貼りがはじまります。内装工事がすめば、4月には入り口のスロープが完成。そうすると内覧が可能になります。今から心待ちにしているところです。

皆さまには改修工事にあたり、ご寄付等の温かいご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。5月の初めには完成し、皆さまに内覧いただける予定なので、お近くを通られた際は寄っていただければと思います。

条例の制定はまもなく大詰め段階に入り、条例専門分科会で議論された条例案が社会福祉審議会に報告され、それが知事に答申される見込みです。当初、心配していた障害者差別解消法の補完機能はないがしろにされ、子ども・高齢者を含んだ形の実効性がない中身になってしまうのではないかとという恐れは、ほぼなくなりました。それどころか、差別の定義や合理的配慮の義務化など、私たちが求めていた内容が多く取り入れられ、実効性がしっかりと担保された中身となりそうです。この成果も、CIL 湖北の佐野さんやSCILの垣見さん、DPIの尾上さんをはじめとする障害当事者委員のおかげと感謝しているところです。しかし、条例が県議会で成立するまでは油断することなく、しっかりと推移を見守っていきたいです。

だんないでは、新年度に向けた事業計画作成の最中です。大型イベントを、みんなで考えながら、日程の確定作業に追われています。5月12日の周年シンポジウム、6月9日の新事務所開所式、7月29日の北部地域障害者ネットワーク主催のシンポジウム、8月28日～30日のピアカン集中講座、10月27日の湖北TRY(仮称)、11月3日のだんない祭りなどなど、すでに大型イベントが確定しています。その時々、PRチラシを送らせていただきますので、ご参加いただきますようお願いいたします。

今年は冬季オリンピックがありました。これまでは、あまり観ようとしていなかったのですが、カーリングがボッチャに似ていることから今回は注目していました。帰国後に銅メダルを獲得した『そだねジャパン』、吉田知那美選手(26)が語った言葉が私の心に響きました。地元の北見市常呂(ところ)町に凱旋(がいせん)した際の言葉です。

正直、この町何もないよね。

小さい時はこの町にいても夢はかなわないと思っていました。でも今は、ここにいなかったらかなわなかったって思っています。

このコメントに思いをはせながら、事務所北側に、わずかに残った雪が溶けていくのを見届けました。

美濃部 裕道

アパートと羽毛布団と洗濯機

谷口健人

最近、アパートを借りました。これまで2年間ぐらい、だんないで自立生活体験をしてきましたが、いよいよ、アパートで、自分の部屋で自分の暮らしを始めるんだと、ワクワクしている今日この頃です。

僕に自立の火をつけさせてくれたのは小里さんでした。小里さんとは、自立生活体験の時期はかぶっていたけど、小里さんは少し僕の前を行っていて、先にアパートを借りたり、寝具を買ったりしていました。そしてある日、衝撃的な出来事が起こったのです！僕は、だんないの備品の簡易ベッドや布団を使っていたけど、その夜布団をかけてみると、普段より圧倒的に軽くて、温かいのです！！「なんだこれは！？何が起こったのだ！？」あのときの衝撃的な思いは、今も忘れられません。だんないの備品のお手頃価格の寝具セットの掛け布団と、小里さんが買った軽くて温かい羽毛の掛け布団が偶然、入れ替わっていたのです！それまで、だんないでも実家でも何も考えず、用意された寝具を使っていた僕にとって、それは本当に大きな衝撃でした。「布団ひとつでこんなに快適さが変わるのか！自立すればすべて自分で選んで決められる。これはもう、自立するしかない！自分が選んだ布団で寝たい！」そう、強く強く思ったのです。その後すぐにニトリに行って、一通り寝具を揃えました。羽毛布団だけでも1~4万円ぐらいまでものがあって、すごいなーと思いました。さすがに4万円は無理だと思って、1万3千円ぐらいのものにしました。今、使っています。とても快適です。ただ、掛け布団と敷き布団と布団カバーを選んで決めたところで力尽きてしまい、枕を400円ぐらいのテキトーなやつで妥協したところ、ベコベコ柔らかすぎでつらいので、これは買い換える予定です。

アパート探しは、みのやんの「僕らにとって完ぺきなアパートはない。一生の住み家と思わずに、とりあえず借りてみて、嫌だったら引っ越せばいい。」との言葉に、そうか。そうだなーと思い、えいっ！と思い切って決めちゃいました。3つの物件を内覧して、3つめにみて決めた、そこそこいい部屋です。

住むところは決まりましたが、部屋はほぼ空っぽで、スロープなどの住宅改修もまだまだこれからです。ただ、今まで自立生活体験の後の洗濯物をコインランドリーで洗ったりしていて、高くついていたので、とりあえず洗濯機を買って、洗濯ができるようにしようと思い、洗濯機を買いに行きました。売り場に行くと洗濯機にもいろいろあるんやなあとびっくりしました。ドラム式というのが良いらしいと思っていましたが、20万円ぐらいしたので却下。あまりに小さいと毛布とかが洗えないよーと聞いていたので、そこそこ大型のものにしようとは思っていました。でもそれでもいろいろな選択肢があって、ぜんぜん決められん！という感じでしたが、最終的には、洗濯機のデザインと「夜でも安心低騒音」のキャッチコピーに惹かれて決めました。今思うと、べつに夜中に洗濯しないなーという感じですが、まあきれいに洗濯できるので、満足しています。洗濯を干すためのハンガー等も、いろんな種類があるんやなあとびっくりしました。僕はめんどくさがりなので、全部を自分で選んで決めるのが、めんどくさいなあと思うことも、ときどきあります。でもやっぱり、楽しいです。自分で選んで決めて買ったり、作ったものとか環境には、愛着を感じられるし、幸せやなあと思います。

今年のだんない年間スローガンは「さあこれからだ、みんなの地域生活！」僕もこれから、地域での自立生活を全力で楽しんで、その魅力をみんなに伝えていきたいです！

本人の声を聞いて

大橋 早香

一昨年、差別解消法が施行されたことで差別解消法のパンフレットが作られ、役場などに置かれているのを見かけます。パンフレットであれば、手に取りやすく、色々な人に知ってもらいやすいと思います。差別解消法を多くの人に知ってもらえることで、障害のある人が配慮を求めやすく、周りの人も障害のある人から配慮を求められた時に話し合いがしやすくなってきていると思います。

最近、「障害の理解」として、障害特性について書かれたパンフレットをよく目にします。例えば、「知的障害のある人は、じっとしていることが苦手です」とか「発達障害のある人は、人の気持ちを理解することが苦手です」といったことが書かれているものが多いです。このようなパンフレットは、障害者を医学モデルから見ることを助長しており、偏見をより根深いものにしていないのでしょうか。「この人は、知的障害者なのだな。こういうことが必要だろう」と決めつけて、本人の意思とは違った支援や配慮がされると思います。必要なのは、障害特性の普及ではなく、社会モデルの普及です。障害特性のパンフレットはありますが、社会モデルが書かれているパンフレットは全くありません。もっと社会モデルの普及に力を入れる必要があります。

そもそも、社会モデルから障害を見れば、障害特性に注目することはないと思います。なぜなら、社会モデルでの障害とは、社会的障壁のことです。障害を理解するとするなら、社会にある障壁を理解すべきです。そして、それを知るには、社会的障壁の中で生きる支援や配慮を必要とする本人の意見を聞くほかありません。

最近、会議の傍聴に行くことがあり、様々な議論がされています。その中で私が思うことは、言語障害のある人についての議論がないということです。お店・電車を言語障害のある人が利用した時、店員や駅員は本人の意見を聞こうとしません。どのようにすれば、言語障害のある本人の意思を聞ける社会にしていけるのか議論する必要があるのではないのでしょうか。「言語障害があって話しにくいだろう。聞き取れないだろう」と決めつけて、コミュニケーションしないのではなく、まずその人の話を聞こうとしてください。

どの障害当事者もいつでも意思表示しています。それを聞こうとしない社会が障害を生み出していることを伝えていきたいです。



電動車椅子サッカーの魅力

山本 陸

電動車椅子サッカーは病気の人や、障害のある人や健常者の人が一緒にできるスポーツです。相手と競り合って、ボールを取って味方につなげるときが、一番楽しいです。ボールが取れなくて味方につなげられなかったときは悔しいです。

これからの目標はパスの仕方や、ドリブルがもっとうまくなりたいと思います。

この文章を読んでくれているあなたにも電動車椅子サッカーの魅力を知ってほしいです。興味のある人は練習を見に来てください。

《F. C. リュートスターの今後の予定》

4月7日	14時から	於、木之本体育館	練習日
4月21日	14時から	於、木之本体育館	練習日
5月5日	14時から	於、木之本体育館	練習日
5月19日	12時から	於、木之本体育館	リーグ戦



みんないっしょがいい！

小里 和也

僕は先日、滋賀県立大学で講演をさせていただくことがあり、自分の経験から、教育、生活介護・施設のことについてあらためて考える機会がありました。講演では、小学校から現在にいたるまで、自分の様々な経験したことを次のように話しました。

①教育について、

- 障害があるだけで、クラスを分けられる。
- 周りに迷惑がかかるという理由で分けられる。
- クラスに自分一人だったので、友達との何気ない会話ができなかった。
- 障害があるだけで、養護学校に
- 障害があっても、地域の学校に難なく通える方でも、養護学校に通わせられる。
- 社会との関わりが少ない。

②生活介護・施設について、

- 一日の予定が決まっていて、今日何がしたい 明日何がしたい、自分がしたいことを決められない。
- ただ介護を受けているだけ。
- 自分のしたいことを我慢するしかしょうがない。

今回、このような話をしてあらためてすごく感じたのは、障害があるだけで、“地域の学校を選べない” “生活をする場所を選べない” というのは、本当におかしいです。しかも、このように分けられて、障害がない人との関わりを奪ってしまうと、障害のある人、ない人がおたがいに接し方が分からなくなってしまいます。その結果、障害のある人、ない人を分けて生活するのが、あたりまえだというように子供の頃から思い込んだまま成長していってしまいます。そのことで障害のある人を自然とさけてしまって、偏見や差別をしてしまうのです。というのも、講演をおえてみなさんからの感想で「クラスを分けることに、なにも違和感がなかった。知らないうちに差別をしていたんだ」「自分で自分のことを決める大切さを知った」などと感想をいただきました。だからこそ、障害があるだけで分けるのではなく、ともに地域の学校で、分けずに、一緒に過ごしていくことが大切なのです。そのために、私たちは講演など周りの人たちに伝えていきます。自分が受けてきたように、クラスを分けられてきたこと、自分で自分のことを決められなくて悔しかったことを、これから学校に行く人たちに同じようなことを受けてほしくはないです！

活動報告

1月6日	ボッチャ会議 in 草津	小里
8日	彦根条例集会 in サンパレス彦根	
10日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
11日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会県条例検討プロジェクト in 長浜市役所	美濃部
12日	だんない新年会 in 想味亭	
14日	真白の恋上映会 in 米原 S.C プラザ	小里
15日	だんない会議	
17日	居場所づくり勉強会第51弾 優先思想問題 障害者の強制不妊手術不妊手術 In 京都市地域・多文化交流ネットワークセンター	小里
18日	代筆投票会議(中田会議) in 大阪	頼尊
19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会 事例検討研修会 in 長浜市役所	谷口
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
23日	ピア・カウンセリング委員会 in かぼちゃランド	美濃部 小里
24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 in 長浜市役所	美濃部 谷口
25日	滋賀県社会福祉審議会 第3回条例検討専門分科会 傍聴 in 滋賀県庁	美濃部 谷口 大橋
27日	我が事、丸ごと 尾上浩二氏学習会 in 障害者会館文京ビックセンター	頼尊
28日	日本の障害児教育の今とこれから 「ともに学び、ともに生きる」教育をみすえて in 枚方公園青年センター	頼尊
30日	講演 in 湖南市立社会福祉施設岩根会館	谷口
31日	平成29年度滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会 in 滋賀県立長寿社会福祉センター	美濃部
2月1日	障害当事者が考える大阪のバリアフリー in 大阪日赤会館	頼尊
2日	JIL 関西ブロック ヤング委員会会議 in 京都市東山いきいき市民活動センター	谷口
3日	障害者差別のない「おおつ」を目指して 2017 in 大津市役所別館大会議室	美濃部 谷口 大橋
3日	立命館講座 障害者と法制度の現在—障害当事者の立ち上がりから 障害者権利条約批准まで	頼尊
5日	だんない勉強会(当事者研修会)	
7日	滋賀県障害者差別解消支援地域協議会 in 滋賀県庁	美濃部 大橋
7日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議 in 長浜市役所	谷口
10日	高等教育における合理的配慮をめぐる課題 in 東京大学本郷キャンパス	頼尊

10日	立命館講座 公正な社会を阻んでいるものは何かー障害者差別解消法と合理的配慮概念を手掛かりに	谷口 大橋
12日	生きづらい状況にある人の暮らしを支え合う in 大阪弁天町 HRC ビル	谷口
12日	みんなつながる地域づくり 誰一人取り残さない地域づくりプロジェクト成果発表会 in 品川フロントビル会議室	頼尊
12日	代筆投票会議(中田会議)in 大阪	頼尊
13日	だんない職員研修(指示介助について)	
14日	だんない会議	
15日	差別禁止条例のことを関西の皆さんで話し合ってみませんか? in はぐみんセンター	谷口
15日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会県条例検討プロジェクト 事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
16日	だんない職員研修(指示介助について)	
16日	長浜市地域福祉活動計画推進委員会 in 湖北	美濃部
17日	障害理解を深めるための講演会「誰もが自分らしく 地域で暮らすために」 in ビバシティホール	美濃部 小里
17日	インクルーシブな社会をめざして～地域で生きる、学とは?～ in 西宮市立こども未来センター	谷口
17日	終末期医療に関する「事前指示書」には危険がいっぱい! in 弁天町 ORC200 生涯学習センター	頼尊
17日	立命館講座 障害女性の生きづらさに向かい合う	大橋
18日	CIL 豊中連続市民講座 みんなで語ろうー障害者は排除される存在なのかー in 蛍池公民館	頼尊
20日	だんない職員研修(指示介助について)	
21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会 in 長浜市役所	美濃部
23日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会 in 長浜市役所	谷口
23日	事業所連絡協議会 in 長浜市役所	美濃部
24日	AJU福祉映画祭 in 名古屋学院大学白鳥学舎翼館	頼尊
24日	社会福祉法人ひかり福祉会 第36回研究集会 in 長浜バイオ大学	谷口
24日	意思決定支援 in 勤労者福祉会館・臨湖	大橋
24日	JR 京橋駅エレベーター訴訟 終結報告会 in 大阪弁護士会館	小里
26日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
27日	ピア・カウンセリング委員会 in かぼちゃランド	美濃部 小里
27日	障大連 全体会議 in 大阪	谷口
28日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 サポーター推進委員会 in 長浜市役所	美濃部
28日	中田訴訟 in 大阪	頼尊

コラム

ヨリの雑記帳（33）

「はじめまして、CILだんないの頼尊恒信と申します」、「熊本から、滋賀のCILだんないに移籍しました」このような言葉とともに、できたてほやほやの名刺を携えて毎日のように、あちこち挨拶回りしていた7年前を懐かしく感じる。その頃は、わりと暇な生活ができていて、ボクと代表のM氏で、温泉に行ったり、敦賀に遊びに行ったり、よくしたものだ。

この7年で、だんないを取り巻く環境も随分と変わってきた。遠方の仲間が事務所に訪ねて下さるようになったり、だんない新事務所の工事が着工したり、といったようになにかバタバタする生活が続いている。地方に出張行っても直行直帰があたりまえになっている。このような状況の中で、どうしても規模が大きくなりつつあるだんないの姿ばかり注目してしまいがちである。

ところが、先日、ある公的機関から「だんないさんって、入所施設ですか？グループホームですか？」という問い合わせをいただいた。ボクは入所施設、グループホームと聞いてしまうと、なにか過剰反応してしまう。この雑記帳でも何回か書いたけど、本来CILという存在は「シセツを出てチイキで暮らす」という営みの拠点となるべきひとつである。そのCILという看板を上げているだんないが、地域の身近な公的機関から「シセツ？」と疑いの目で見られたという点は、「今までなにをしてきたのだろうか？」と一気に地へと突き落とされた感覚になる。

地域生活の拠点として地域社会が認識できていない。センター開設から丸7年が立とうとしている現在において、このような状況であること自体、だんないの一員として強く反省せざるを得ない。改めて「地域化の拠点」とは何かが問われている。もちろん、公的機関といっても、全ての機関が障害者福祉に詳しいかどうかといえば、限界があるだろう。だから、入所施設、グループホームと言っている本人たちは、たぶんその言葉の内実、どのようなところを指して「施設・グループホーム」と呼ぶのが全くわかっていないのだろう。だから、本人たちもかなり中途半端な発言を繰り返すばかりだった。そのような状況なので、シセツと誤解されても仕方がないだろうし、本人たちを責めることはできないという見方もできよう。

だが、しかしである。脱施設化や地域化という大命題を掲げてセンターを運営しているボくらにとって、このような誤解がでること自体、地域化が進んでいない現状を如実にあらわれているともいえるのである。だからこそ、この事態はボクにとって由々しき危機的状況ともいえるのである。地域と共に歩んできたつもりだったが、実はそうではなかったということが明らかになったのである。そこに、「規模が大きくなりつつあるだんないの姿」にばかり注目しすぎて、初心を全く忘れていたボクが存在する。全く恥ずかしいばかりである。

地域社会に「地域化の拠点」であることを認知されて、はじめてCILと言えるのではないだろうか。今回の事態を期に、地域の皆さんとともに歩むCILを目指し、もっと精進を積んでいきたいと思う今日この頃である。

今晚の発刊の打ち上げ会、どこでやろうかなあ？ビール君が恋しい！まだ行ったことがないお店も何軒かあるし、そこにしようかなあ？長浜に、新しい居酒屋もできたと聞く。う～ん、迷うなあ。でも、よく考えると今日は休肝日だったかなあ（笑）！

（よりたか つねのぶ）

NPO 法人CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : <http://cil-dannai.jp/>

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号：ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人CIL だんない